

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市水とみどりの審議会		
事務局 (担当課)		水みどり環境課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 2 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 0 月 2 日 (木) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 5 時 3 0 分		
開催場所		相模原市民会館 2 階 第 2 中会議室		
出席者	委 員	8 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	8 人 (水みどり環境課長、他 7 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1. 開会 2. 議題 (1) 会長、副会長の選出について (2) 第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略 実績報告書(令和6年度版)(案)について (3) 次期相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略の策定について 3. その他 4. 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

1 開会

2 議題

(1) 会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長に眞家委員を、副会長に平野委員をそれぞれ選出した。

(2) 第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略 実績報告書(令和6年度版)(案)について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

(松井委員)

年度計画の達成について、進展しているのか、維持していると考えているのか。

(事務局)

基本的には維持していると考えている。

コロナ禍により、活動やイベントなど制限されていたものが解消され、そちらについては少し伸びていると考えている。

(平野副会長)

実績報告書7ページに、令和6年度の緑地面積実績値 22,081ha とあるが、我々の活動地と同じように整備した場合、非常に人数とお金がかかることを共有しておきたい。

木もれびの森 73ha のうち、我々の団体は 12.3ha を活動用地としてボランティアをやっている。現在木もれびの森で活動してるボランティア団体は 4 団体あり、各ボランティア団体が綺麗に整備しているところと、全然が手が入っていないところがある。

その木もれびの森も含めての 22,081ha だと思うが、我々の活動を整備の根拠値として試算すると、年間では延べ 20 万人、金額的には 6 億円ぐらい必要になる。人数だけでも相模原市民の約 2%に相当する人数が必要。

この緑地面積 22,081ha を、どんな状態にするのか。本当に綺麗にするのか、どのようにしようと想定されてるのか伺いたい。

(事務局)

実績報告書の緑地面積実績値は、木もれびの森のような市街地にある緑地のほか、津久井地域の森林、公園や学校のグラウンドも緑地面積に含まれているので、それぞれの場所によって目指す姿が異なってくると考えている。

木もれびの森については、市街地に面しているため、安心・安全を第一に、市民が散策や活動をする場所となるよう目指していく場所と考えている。

(香田委員)

進捗状況が60%に満たなかった事業の中で、予定地のイベント開催が困難だったため、代替の事業を実施したとあるが、代替のイベントというのはどんな事業か。

(事務局)

台風被害の影響で石老山でのイベント開催が未だ困難なため、令和6年度は、木もれびの森で行った緑の祭典や、FC 相模原のホームゲームなどにおいて、3回ほどさがみはら津久井産材利用拡大協議会の方と協働してイベントを実施した。

パネル展示や、津久井産材を使ったワークショップなどの体験型イベントを実施し、当初予定していた自然環境に対する意識の醸成や、林業の普及啓発を図るという事業目標と合致するというので、代替事業として報告している。

(平野副会長)

報告書9ページにある、基本目標4の成果指標としての「都市緑化に関する講習会等への参加者数」については、ご検討いただきたい。先ほど申しあげたように、緑地が22,081haであれば、延べ20万人の市民の参加が必要ということで、募集やイベントの段階から、実際に森や緑地で活動している人数をカウントすることも大事ではないかと思う。

実績値が373人というのがとても少なく、市民全体で緑化に力を入れていることがわかるような指標とするよう、次期の計画では検討してほしい。

(事務局)

昨年度の審議会においても、基本目標4が「多様な主体と連携し、次世代につなぐ担い手づくりを進めます」となっているのに、成果指標の規模が小さいのではとのご指摘をいただいている。こちらについても、次期計画の策定時に、どのような指標を定めていくのがふさわしいかを審議会の皆様からご意見をいただきながら考えていきたいと思っている。

(眞家会長)

令和9年度の目標値が390人となっているのはなぜか。

(事務局)

手元に人数設定をした際の資料がないが、市の外郭団体である相模原市まち・みどり公社で開催しているみどりの講習会等を、緑に触れるファーストステップと考え、都市緑化に関する講習会等への参加者数を指標として設定した。

基準の平成30年度(2018年)の参加者が329人だったので、そこから令和9年度(2027年)まで、8年かけて60人ぐらい増やしていくということで、割合を定めたと考えている。

コロナ禍で講習会等の事業が全くできなかった時期があり、そこからまた少しずつ増えてきている。

(眞家会長)

進捗状況が60%未満の項目で、雨水浸透ますの設置があるが、浸透ますは、希望すれば自己負担なしで入れていただけるのか。

(事務局)

確認の上後日回答する。

(川島委員)

同じく進捗状況が60%未満の項目で「津久井湖面の親水空間の利活用」があるが、具体的にはどういうことか。目標を達成する見込みはあるのか。

(事務局)

この事業については昨年度、課題整理を行っており、具体的な進捗がなかったため進捗状況が0%となっている。利活用について検討していると聞いている。

(眞家会長)

津久井地域はエリア的に別の部署があるのか。

(事務局)

水みどり環境課は旧相模原市域の緑地を担当し、津久井地域は津久井地域環境課が緑地や公園について担当している。

(平野副会長)

21 ページで自然共生サイトについて検討をされてるということで、緑地のどの辺りを対象として今お考えか教えて欲しい。

それともう一つ自然共生サイトに認定された場合に、国からの補助金又は助成金があるのか。あわせて伺いたい。

(事務局)

自然共生サイトについては、検討中のため、具体的に場所は決まっていない。

令和7年度の自然共生サイトとして、中央区宮下の三菱電機株式会社が認定されたことが先日公表され、市内初の認定として、大変喜ばしく思っている。

助成金等については、資料を持ち合わせていないので、後日回答させていただく。

(眞家会長)

自然共生サイトについて、市内の団体等が登録を希望する場合は、市の協力が得られるのか。

(事務局)

協力していきたいと考えている。すでに登録をした自治体からは、モニタリングや、資料の作成が大変だったと聞いている。

(平野副会長)

市が積極的に市の管理区域を登録していくという考えはないのか。

(事務局)

例えば木もれびの森や公園などの市の管理地を登録することを検討していく必要があると思っているが、保護区域になっている緑地についてはすでに OECM に登録済なの

で、国際的な目標である陸地と海の30%以上を保全するという30by30の達成には寄与しない。ただ自然共生サイトには登録できることから、必要性について検討していきたい。

(松井委員)

51ページの332-1「相模川沿岸の水源環境保全・再生」について、稚アユの放流会を実施したとあり、放流数が記載されているが、その後のデータはあるのか。

(事務局)

放流した稚アユが定着しているのか、そこで育っているのかといったところまでのモニタリングは難しいので、そこまでは追えていないかと思う。

中道志川トラスト協会に、確認させていただき、後日回答させていただく。

(眞家会長)

いろんな事業があるが、例えば事業一覧でクリックするとその事業に関連するWEBサイトが見られるようにはなっているのか。

(事務局)

ホームページから各事業へリンクするような仕組みは作っていない。

(眞家会長)

活動や各地で行っている興味ある事業がわかると、市民も参加しやすいのではないか。そのようなものを作る予定はあるのか。

(事務局)

今のところそのような計画はないが、実績報告で結果を出して、そこからその事業についてもう少し詳しく把握できるような仕組みがあれば、市民の皆様に対してPRできるかと思うので、検討していきたい。

(眞家会長)

検証ではなく、市民に参加していただきたいというプラスのイメージでの提案と捉えていただきたい。

(平野副会長)

28ページの214-1「企業や団体と連携した緑地の保全」の、森づくりパートナーシップ協定についてだが、⑤今後の取組のところで、「引き続き市民協働による緑地等の維持管理の推進を図り、面積の維持に努める」とある。

我々の団体にも新しい人材が増えていかないという問題があり、他の団体も同じだと思うが、本当に森づくりをしたい人を呼び込むための、森づくりボランティア講座をぜひやって欲しい。3年前に、我々の団体と、市とまち・みどり公社で開催したが、それをきっかけに入会してくれた人がいた。

(事務局)

緑地の保全については、市民及び企業、ボランティア団体と協働していくことは重要だと思うので、ご意見があった通り、市が主体の講座も含めて、またボランティア団体とご

相談させていただきながら、ぜひ実施していきたい。

また、協働という意味では、報告書 22 ページにある、211-1「多様な主体との森林づくり体制の強化」ということで、企業の森を検討している。

市民参加だけではなく企業に参加していただく、新たな制度を検討している。

(山崎委員)

報告書 19 ページの 131-4「ハクビシンによる生活被害対策」、或いは、132-1「アライグマの生息分布域の縮小や個体数減少の推進」について、令和6年度の捕獲頭数について、ハクビシンも含め、増減具合はどうなっているのか。

(事務局)

アライグマ、ハクビシンに関しては、市民の方から要望があった場合、市で檻を設置したりして捕獲する支援をしている。アライグマについては、令和5年度が市全体で捕獲した分が 171 頭で、令和6年度は 100 頭くらい増えているが、それ以前は横ばいで推移している。

(山崎委員)

このところ増えたということか。

(事務局)

今年度も9月までの実績では、昨年ほどではないが、それ以前に比べたら増加傾向にある。他の市町村でも増えていると聞いている。

ハクビシンに関しては、変化がない。

(山崎委員)

相模原市だと都市部と山間部や農地などがあるが、どの辺りが増えて、それぞれ対策も変わってくるのか。

(事務局)

細かいデータはないが、市内各区で比べると、緑区のいわゆる山間部は増えてはいるが、中央区・南区に比べると、増加割合はそこまで高くないとのことなので、どちらかというと都市部で増えている。

専門業者にも話を伺ったところ、それまで森の中から出てきた個体を捕まえていたが、もしかしたら森の中から都市部に出てきて繁殖するフェーズに入っている可能性があるとのことだった。

(平野副会長)

令和 2 年 3 月策定の第 2 次水とみどりの基本計画・生物多様性戦略の冊子で、後ろの方にアンケートがある。

市民と環境保全団体と企業があり、104 ページの設問⑤「貴事業所の事業活動以外における「水辺やみどり」「生物多様性」の保全に関する取組状況について」で、「取組を行う予定は無い」が 54%との結果である。7 年前は半分以上が取り組む予定がなかったが、先ほど事務局から企業の森について話があったことから、企業の考えが変わっ

てきたのではないかと想像するが、その辺りはどのように考えているか。

(事務局)

アンケートについては、計画策定時に実施しているため、現在の正確な数字は把握していないが、ここ数年みどりに対する企業の取り組みや、生物多様性に対する取り組みについて、社会貢献ということで、かなり関心が高くなっていると感じている。

国でも民間活力を生かしたみどりの創出について、様々な施策として実施されていることから、市としても企業等からの協力をいただき、みどりの整備を進めていけたらと考えている。

(山崎委員)

みどりの整備を進めて、二酸化炭素を削減したと企業が認証を受けたりはしているのか。

(事務局)

J-クレジット関係の話かと思うが、企業の森については、J-クレジットの取り組みとしては実施する予定はないと聞いている。

(山崎委員)

企業の森以外の市の活動でJ-クレジットについて進めることはあるのか。

(事務局)

津久井地域でモデル事業を実施している。**市の地球温暖化対策計画で森林整備により**、二酸化炭素の排出量を減らす目標値があるかと思うので、そちらも意識しながら進めていきたい。

(山崎委員)

森林の整備とは、どういったことを行うのか。

(事務局)

森林所有者や森林組合等の事業者と協力して、森林の適切な管理の推進に取り組んでいる。

(山崎委員)

適切な人工林として整備していくという考え方で良いか。

自然林と人工林、元は人工林だったが自然の森に移行しようなど、様々な考え方があるので、それぞれに合わせた目標設定を明確にしていかないと、森林整備という漠然とした言い方は、方向性が定まらないので、市民の方によって誤解が生まれる。それぞれの森林の整備について、少し注釈を加えられるといいのではないかな。

(眞家会長)

実績報告書案の作成については、本日委員から出された意見等を踏まえて、進めさせていただくということでよろしいか。また内容の修正については、私に一任させていただくとしてよろしいか。(異議なし)

(3) 次期相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略の策定について
事務局による説明の後、質疑応答を行った。

(小川委員)

説明のあった法改正等を、次期の計画に組み込んでいくという話でよいか。

(事務局)

令和 5 年度に計画の改定は行っていないが、実施事業の見直しを行っている。その時点で改正があった生物多様性国家戦略などは、一部反映しているものもあるが、大幅な改定はしていないため、盛り込みきれてないところもある。

その後、都市緑地法が令和 6 年度に改正されており、その内容などを踏まえて次期計画について検討していく。

(眞家会長)

いろいろな施策について、グリーンインフラの推進や生物多様性の配慮などの視点で検討していく必要があると考える。

(事務局)

グリーンインフラの推進については、計画の中で概念は取り入れているが、そのあとに国の推進戦略が策定されたため、市としてどのような形でグリーンインフラを進めていくのか、考えていく必要がある。今後いろいろなご審議の中で意見をいただきたい。

(眞家会長)

では、次期相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略について作業を進めるということでよろしいか。(異議なし)

3 その他

次回の審議会については、2 月頃に開催させていただく予定である。

相模原市水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	眞家 永光	北里大学獣医学部 教授	会 長	出席
2	松井 久実	麻布大学獣医学部 講師		出席
3	山崎 旬	玉川大学農学部 教授		出席
4	川島 尚	公募委員		出席
5	小川 智代	特定非営利活動法人みどりのお医者さん 理事		出席
6	香田 隆芳	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		出席
7	舘 勝敏	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
8	中嶋 豊	相模原商工会議所 3号委員 (東京ガス株式会社神奈川西支店支店長)		欠席
9	平野 和夫	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長	副会長	出席